

令和6年度

シラバス

(講義概要)



土浦協同病院附属看護専門学校

専門基礎分野

専門基礎分野(21 単位 525 時間)

1.ねらい

看護学の観点から人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を養う。

2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年度	項
人体の構造と機能	解剖生理学 I	1	30	1 年次	
	解剖生理学 II	1	30	1 年次	
	解剖生理学 III	1	30	1 年次	
	解剖生理学 IV	1	30	1 年次	
	生化学	1	30	1 年次	
疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学 I	1	30	1 年次	
	病態生理学 II	1	30	1 年次	
	病態生理学 III	1	30	1 年次	
	病態生理学 IV	1	30	1 年次	
	病態生理学 V	1	30	1 年次	
	病態生理学 VI	1	30	1 年次	
	微生物学	1	30	1 年次	
	臨床推論	1	15	1 年次	
	治療論	1	30	1 年次	
	薬理学	1	30	1 年次	
	栄養学	1	15	1 年次	
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	2	30	3 年次	
	関係法規	2	30	3 年次	
	社会福祉	2	30	2 年次	
		22	540		

科目名	解剖生理学 I	単位数	1	授業形態	講義
講師名	黒澤 貴美	時間	30	履修年次	1 年次前期
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。				
目標	1.人体の正常な構造と機能が理解できる。 2.体を支え動かす仕組みと情報伝達する仕組みについて理解できる。				
講義内容 (概要)	1.人体の構造と機能	1)形からみた人体 2)素材から見た人体 3)機能からみた人体	(1)体表からみた人体の部位 (2)体表からみた骨格部分 (3)動脈・静脈 (4)人体の構造と区分 (5)人体の部位と器官： 頭部、頸部、胸部、骨盤部 (1)細胞の構造 (2)細胞膜・細胞質 (3)上皮組織・支持組織・筋組織・ 神経組織 (1)生命維持システム、運動・調節システム (2)体液とホメオスタシス (3)靭帯 (4)ホメオスタシス		
	2.体の支持と運動 [運動器系]	1)骨格 2)骨の連結 3)骨格筋 4)体幹の骨格と筋 5)上肢の骨格筋 6)下肢の骨格と筋	(1)人体の骨格 (2)骨の形態と構造 (3)骨の組織と組成 (4)骨の発生と成長 (5)骨の生理的な機能 (1)関節 (2)不動性の連結 (1)骨格筋の構造 (2)骨格筋の作用 (3)骨格筋の神経支配 (1)脊柱 (2)背部の筋：浅胸部、深胸部、横隔膜 (3)腹部の筋：前腹部、側腹部 (1)上肢帯の骨格：上腕骨、前腕の骨、 手の骨 (2)上肢帯の筋群：肩、回旋筋群 (3)上腕の筋群：屈筋群、伸筋群 (4)前腕の筋群：屈筋群、伸筋群 (5)手の筋群 (6)上肢の運動 (1)下肢帯と骨盤 (2)下肢の骨格：大腿骨、下腿の骨、足の骨 (3)大体の筋群：伸筋群、内転筋群、屈筋群 (4)下腿の筋群：屈筋群、伸筋群、腓骨筋群 (5)足の筋 (6)下肢の運動		

講義内容 (概要)		7)頭頸部の骨格と筋	(1)神経頭蓋(脳頭蓋) (2)顔面頭蓋： 眼窩、骨鼻腔と副鼻腔、 下顎骨と顎関節、舌骨 (3)頭部の筋：咀嚼筋、表情筋、その他の筋 (4)頸部の筋：頸部浅層、前頸部、後頸部
		8)筋の収縮	(1)骨格筋の収縮機構 (2)骨格筋収縮の種類と特性 (3)不随意筋の収縮の特徴
	3.情報の受容と処理 [脳・神経系]	1)神経系の構造と機能 2)脊髄と脳 3)脊髄神経と脳神経 4)脳の高次機能	(1)神経細胞と支持細胞 (シナプス・ニューロン) (2)情報伝達 (3)神経系の構造 (1)脊髄の構造と機能 (2)脳の構造と機能：大脳、視床・視床下部、 脳幹(中脳、橋、延髄)、小脳、間脳、脳室、 髄膜、脳脊髄液の循環 (1)脊髄神経の構造と機能 (2)脳神経の構造と機能 (3)運動機能と下行伝導路 (4)感覚機能 (5)体性感覚と上行伝導路 (1)脳波と睡眠 (2)記憶 (3)本能行動と情動行動 (4)内臓調節機構
評価方法	・筆記試験		
使用テキスト	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学：医学書院 e テキスト		
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有		

科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	高柳 真里子	時間	30	履修年次	1年次前期
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。				
目標	1.呼吸と血液の循環について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.呼吸の働き [呼吸器系]	1)呼吸器の構造 2)呼吸	(1)上気道 (2)下気道 (3)胸膜、縦隔 (1)内呼吸と外呼吸 (2)呼吸器と呼吸運動： 気道、肺胞、呼吸のメカニズム、呼吸筋 (3)呼吸気量 (4)ガス交換とガス運搬： 肺におけるガス交換、 血液ガス酸素・二酸化炭素の運搬 (5)肺の循環と血流： 肺循環、換気血流比不均衡の調節 (6)呼吸運動の調節：神経性調節、化学受容器 (7)呼吸器系の病態生理：換気障害、拡散障害 他		
	2.血液の働き [血液・造血器系]	1)血液の組成と機能 2)赤血球 3)白血球 4)血小板 5)血液の凝固と線維素溶解 6)血液型			
	3.血液の循環とその調節 [循環器系]	1)心臓の構造 2)心臓の拍出機能 3)末梢循環系の構造 4)血液の循環調節 5)リンパとリンパ管	(1)位置と外形 (2)4つの部屋と4つの弁 (3)心臓壁 (4)心臓の血管と神経： 冠状血管系、冠状循環、神経 (1)心臓の興奮とその伝播(刺激伝導系) (2)心電図 (3)心臓の収縮(心機能の調節) (1)血管の構造 (2)肺循環の血管 (3)体循環の動脈と静脈 (1)血圧 (2)血液の循環 (1)リンパ管の構造 (2)リンパの循環		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学：医学書院 eテキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	黒澤 貴美	時間	30	履修年次	1年次前期
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。				
目標	1.栄養の消化と吸収および内部環境を整える仕組みについて理解できる。				
講義内容 (概要)	1.栄養の消化と吸収 [消化器系]	1)口・咽頭・食道の構造と機能 2)腹部消化管の構造と機能 3)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4)腹膜	(1)口の構造と機能 (2)咽頭と食道の構造と機能 (1)胃の構造と機能 (2)小腸の構造と機能 (3)栄養素の消化と吸収 (4)大腸の構造と機能 (1)膵臓の構造 (2)肝臓と胆嚢の構造と機能 (3)腹膜		
	2.内臓機能の調節 [内分泌系]	1)自律神経による調節 2)内分泌による調節 3)全身の内分泌腺と内分泌細胞 4)ホルモン分泌の調節 5)ホルモンによる調節の実際	(1)自律神経の構造と機能 (1)内分泌とホルモン (2)ホルモンの作用機序 (1)視床下部－下垂体系 (2)甲状腺と副甲状腺 (3)膵臓 (4)副腎 (5)性腺 (1)神経性調節 (2)フィードバック機構		
	[代謝]	1)栄養とエネルギー代謝 2)物質代謝	(1)同化作用と異化作用 (2)酵素 (3)炭水化物の代謝 (4)脂肪の代謝 (5)タンパク質の代謝 (6)ビリルビンの代謝 (7)核酸の代謝 (8)ビタミン・ミネラルの代謝		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学：医学書院 e テキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	解剖生理学Ⅳ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	高柳 真里子	時間	30	履修年次	1年次前期
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。				
目標	1.体液の調整と尿の生成について理解できる。 2.感覚器系について理解できる。 3.生殖・発生に関する機構について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.体液の調整と尿の生成 【腎・泌尿器系】	1)腎臓 2)排尿路 3)体液の調節	(1)腎臓の構造と機能 (2)糸球体の構造と機能 (3)尿細管の構造と機能 (4)傍糸球体装置 (5)クリアランスと糸球体濾過量 (6)分泌される生理活性物質： エリスロポエチン、ビタミンD活性化 (1)排尿路の構造：尿管、膀胱、尿道 (2)尿の貯蔵と排尿 (1)抗利尿ホルモン (2)レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系		
	2.感覚器系の構造と機能 【感覚器系：皮膚・眼・鼻耳】	1)体性感覚 2)眼の構造と視覚 3)耳の構造と聴覚・平衡覚 4)味覚と嗅覚 5)皮膚の構造と機能 6)体温調節	(1)表在感覚 (2)深部感覚 (1)眼球と眼球付属器 (2)視力と視野 (3)明暗覚、色覚 (4)眼球運動 (1)耳の構造 (2)聴力 (3)平衡感覚・平衡器官の構造・平衡覚 (1)味覚器と味覚 (2)嗅覚器と嗅覚 (1)皮膚の組織構造 (2)皮膚の付属器 (3)生体の防御機構 (1)核心温度と外殻温度 (2)熱放散と熱産生 (3)体温調節中枢		
	3.生殖・発生に関する機構 【生殖器系】	1)男性生殖器の構造、精子の形成 2)女性生殖器系の構造、性周期、 妊娠・分娩・産褥			
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学：医学書院 e テキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	生化学	単位数	1	授業形態	講義
講師名	白岩 雅和	時間	30	履修年次	1 年次前期
ねらい	生体内で営まれている現象を理解する。				
目 標	1.人体内部における化学変化や物質代謝を学び、生命現象について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.生命維持に必要な栄養素の構造と性質	1)細胞 2)糖質 3)脂質 4)アミノ酸とタンパク質 5)核酸とヌクレオチド 6)ビタミン			
	2.酵素	1)役割 2)性質 3)分類 4)アイソザイム			
	3.代謝	1)代謝とは 2)代謝のその制御 3)ホルモンの作用と代謝の調節			
	4.糖質代謝	1)代謝の概要 2)解糖のしくみ 3)グリコーゲンの合成と分解			
	5.脂質代謝	1)役割と概要 2)脂質の消化・吸収と貯蔵 3)脂肪酸の分解 4)ケトン体の代謝 5)脂肪酸と脂肪の合成 6)コレステロールの代謝 7)リン脂質 8)血中リポタンパク質			
	6.タンパク質とアミノ酸の代謝	1)役割と概要 2)タンパク質の消化と吸収 3)アミノ酸の代謝			
	7.核酸・ヌクレオチドの代謝	1)役割と概要 2)合成 3)分解			
	8.エネルギー代謝				
	9.遺伝情報	1)DNA 2)DNA の複製 3)DNA から RNA への転写 4)遺伝子の変化			
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・宮澤恵二編、人体の構造と機能(2) 臨床生化学、メディカ出版、2024				
備 考	実務経験無し				

科目名	病態生理学 I	単位数	1	授業形態	講義
講師名	渡部 誠一、山田 雅人、浅野 宏規、盛山 吉弘	時間	30	履修年次	1 年次前期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1.病因と病態の特徴が理解できる。 2.感覚器の疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
	1.病理学で学ぶこと	1)病理の対象、内因・外因、病因の分類			
	2.細胞・組織の損傷、修復、炎症	1)急性炎症、慢性炎症、アポトーシス、繊維化			
	3.免疫、移植、再生医療	1)免疫機構、アレルギー、自己免疫疾患、移植			
	4.感染症	1)感染源、感染経路			
	5.循環障害	2)宿主の感染防御反応、医療関連感染 1)浮腫、血栓、虚血、梗塞、高血圧、ショック、DIC			
	6.代謝障害	1)脂質代謝、蛋白質代謝、糖質代謝、ビリルビン代謝、先天代謝異常			
	7.老化、死	1)加齢に伴う諸臓器の変化 2)老年症候群 3)臨死期、終末期医療			
	8.先天異常、遺伝性疾患	1)遺伝、先天異常、遺伝子異常、遺伝学的検査			
	9.腫瘍	1)悪性度、湿潤、転移 3 型、TNM 分類、がんの治療			
	10.生活習慣、環境因子	1)食事、喫煙、飲酒、ストレス、睡眠、放射線、中毒			
	11.感覚器系の症状、検査、治療 [眼]	緑内障 白内障 網膜剥離 網膜症 結膜炎			
	[耳鼻咽喉]	突発性難聴 メニエール病 中耳炎： 副鼻腔炎 アレルギー性鼻炎 咽頭炎 扁桃炎 声帯ポリープ 腫瘍：	慢性中耳炎、滲出性中耳炎、急性中耳炎 舌癌、咽頭がん、喉頭がん		
	[皮膚]	皮膚炎： アレルギー疾患： 腫瘍： 感染性疾患： ウイルス性疾患： 真菌症： 熱傷(ケロイド)、色素性母斑	脂漏性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹、汗疱 接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、 光線過敏症 色素性母斑、有棘細胞癌、基底細胞癌、 悪性黒色腫 蜂窩織炎、伝染性膿痂疹、疥癬 帯状疱疹、単純ヘルペス 白癬、カンジダ症		

評価方法	・筆記試験
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(1)、病理学：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(2)、病態生理学：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13) 眼：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(14) 耳鼻咽喉：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(12) 皮膚：医学書院 e テキスト ・国家試験対策パーフェクト必修、メヂカルフレンド社
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有

科目名	病態生理学Ⅱ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	白坂 律郎、山本 信二、町田 明	時間	30	履修年次	1年次前期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1.運動器・脳神経疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
講義内容 (概要)	1.運動器疾患の症状、治療、検査	骨折： 脱臼・捻挫 骨粗鬆症 腫瘍： 変形性関節症 腰痛症： 肩関節周囲炎 末梢神経障害 炎症性疾患	開放骨折、閉鎖骨折、粉碎骨折 骨肉腫、軟部組織腫瘍 椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症 骨・骨髄炎、関節炎		
	2.脳神経疾患の症状、治療、検査 [脳神経外科]	脳血管障害： 頭蓋内圧亢進症 頭部外傷 脳腫瘍 水頭症	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜外血腫、もやもや病		
	[神経内科]	神経変性： 脱落疾患： 認知症： 感染症： 末梢神経系： 自律神経失調症 筋肉・神経接合部：	パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症 多発性硬化症、てんかん アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 脳炎、髄膜炎 ギランバレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺(ベル麻痺)、 筋ジストロフィー、重症筋無力症		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 運動器：医学書院 eテキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経：医学書院 eテキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有				

科目名	病態生理学Ⅲ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	齊藤 和人、鴨下 昌晴	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1.呼吸器系、血液・造血器疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
講義内容 (概要)	1.呼吸器系疾患の症状、治療、検査	炎症性疾患： 気管支喘息 肺結核 気胸 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 肺循環障害： 腫瘍：	気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎 肺高血圧、肺塞栓症 肺癌、中皮腫		
	2.血液・造血器疾患の症状、治療、検査	貧血： 白血球減少症 出血性疾患： 腫瘍：	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、 骨髄異形成症候群、二次性貧血 血小板減少性紫斑病(TTP)、 免疫性血小板減少性紫斑病(ITP)、 播種性血管内凝固症候群(DIC) 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器：医学書院 eテキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 血液・造血器：医学書院 eテキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有				

科目名	病態生理学IV	単位数	1	授業形態	講義
講師名	花田 幸代、渡部 誠一、梅田 直人	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1.循環器系、膠原病・アレルギー・感染症疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
講義内容 (概要)	1.循環器系疾患の症状、治療、検査	先天性疾患： 虚血性心疾患： 心不全： 心筋疾患： 心タンポナーデ 不整脈： 炎症性疾患： 弁膜症： 動脈疾患： 閉塞性動脈硬化症 バージャー病、 高安動脈炎 挫滅<圧挫>症候群 (crush syndrome) 静脈疾患： 高血圧症		心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、 動脈管開存症、ファロー四徴症 狭心症、急性心筋梗塞 急性心不全、慢性心不全 拡張型心筋症、肥大型心筋症 上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、 徐脈性不整脈 感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎 大動脈弁疾患、僧房弁疾患 大動脈瘤、大動脈解離 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症	
	2.アレルギー、感染症、膠原病、疾患の症状、治療、検査 [アレルギー]	薬物アレルギー アナフィラキシーショック 花粉症：		アレルギー性鼻炎	
	[感染症]	細菌： 真菌： ウイルス：		マイコプラズマ肺炎、食中毒、 腸管出血性大腸菌感染症 カンジダ症 インフルエンザ、 流行性耳下腺炎<ムンプス>、麻疹、風疹、 エボラ出血熱、コロナウイルス感染症、 ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、 ノロウイルス感染症、敗血症	
	[膠原病]	全身性エリテマトーデス(SLE) 関節リウマチ シェーグレン症候群 全身性強皮症 皮膚筋炎 多発性筋炎 ベーチェット病		マイコプラズマ肺炎、食中毒、 腸管出血性大腸菌感染症	
評価方法	・筆記試験 ・レポート				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器：医学書院 eテキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11) アレルギー 膠原病 感染症：医学書院 eテキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有				

科目名	病態生理学Ⅴ	単位数	1	授業形態	講義
講師名	佐藤 昌、草野 史彦、清水 馨	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1. 歯科口腔・消化器系、内分泌系疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
講義内容 (概要)	1. 口腔疾患の病態と診断・治療	う歯、歯周病			
	2. 消化器系疾患の症状、治療、検査 [上部消化管]	炎症性疾患： 潰瘍性疾患： 腫瘍： 食道動脈瘤	逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、 ヘリコバクターピロリ感染症 胃潰瘍、十二指腸潰瘍 食道癌、胃癌		
	[下部消化管]	炎症性疾患： 痔瘻 イレウス 腫瘍： 排便障害：便秘、下痢	潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎 大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌		
	[肝臓・胆道系・膵臓]	肝臓： 胆道系： 膵臓：	肝炎、肝硬変、肝癌、脂肪肝、アルコール性肝炎 胆管炎、胆嚢癌、胆管癌、胆石症 膵炎、膵癌		
	[その他]	鼠径ヘルニア 腹膜炎 横隔膜ヘルニア 腹壁癒痕ヘルニア			
	3. 内分泌系疾患の症状、治療、検査 [内分泌]	間脳・下垂体疾患： 甲状腺疾患： 副甲状腺(上皮小体)疾患 副腎皮質・髄質疾患： 腫瘍：	下垂体前葉機能低下症、尿崩症 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎 クッシング症候群、原発性アルドステロン症、 褐色細胞腫、アジソン病 下垂体腫瘍、甲状腺癌		
	[代謝]	糖尿病 メタボリックシンドローム 肥満症 脂質異常症 高尿酸血症 痛風 ビタミン欠乏症			
評価方法	・筆記試験 ・レポート				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(15) 歯・口腔：医学書院 eテキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器：医学書院 eテキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝：医学書院 eテキスト 				
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有				

科目名	病態生理学VI	単位数	1	授業形態	講義
講師名	戸田 孝之、川野 圭三、遠藤 誠一、関 知子	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。				
目標	1. 腎泌尿器、女性・男性生殖器疾患の症状・治療・検査が理解できる。				
講義内容 (概要)	1.腎疾患の症状、治療、検査 [体液 調節]	腎炎 慢性腎臓病 ネフローゼ症候群 腎不全 水・電解質の異常： 酸塩基平衡の異常：	脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症 アシドーシス、アルカローシス		
	2.泌尿器疾患の症状、治療、検査	炎症性疾患： 腫瘍： 男性生殖器： 排尿障害：	腎盂腎炎、膀胱炎、腎・尿路結石症 腎癌、尿管癌、膀胱癌、腎がん、精巣腫瘍 前立腺炎、前立腺肥大症、前立腺癌 過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症		
	3.女性生殖器疾患の症状、治療、検査	子宮筋腫 子宮内膜症 卵巣腫瘍 性感染症 生殖機能障害： 腫瘍：	月経異常、更年期障害 子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌		
	4.乳房疾患の症状、治療、検査	乳がん 乳腺炎 乳腺症			
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8) 腎・泌尿器：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器：医学書院 e テキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有				

科目名	微生物学	単位数	1	授業形態	講義
講師名	渡部 誠一、湯原 里美、白井謙太郎	時間	30	履修年次	1年次前期
ねらい	微生物の特徴とそれらが生体に及ぼす影響を理解する。				
目標	1.微生物の特徴を理解できる。 2.微生物の感染メカニズムとその解決策を理解できる。				
講義内容 (概要)	<p>[総論]</p> <p>1.微生物学、免疫学の歴史</p> <p>2.微生物の生物学的特徴</p> <p>3.微生物と感染症</p> <p>4.免疫と生体防御</p> <p>5.感染症と制御、感染症3原則</p> <p>6.化学療法と耐性菌</p> <p>7.新型コロナウイルス感染症</p>	<p>[各論]</p> <p>グラム陽性菌とグラム陰性菌</p> <p>グラム陽性球菌</p> <p>グラム陰性桿菌</p> <p>マイコプラズマウイルス</p>	<p>[臨床論]</p> <p>感染症法</p> <p>髄膜炎</p> <p>脳炎</p> <p>中耳炎</p> <p>副鼻腔炎</p> <p>咽頭炎、扁桃炎</p> <p>咽頭気管支炎</p> <p>肺炎</p> <p>気管支炎</p> <p>感染性心内膜炎</p> <p>心筋炎・心膜炎</p> <p>胸膜炎</p> <p>肝炎</p> <p>膵炎</p> <p>腸炎</p> <p>虫垂炎</p> <p>腎盂腎炎</p> <p>蜂窩織炎</p> <p>骨髄炎</p>		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	<p>・増淵俊之：感染制御の基本がわかる微生物学・免疫、羊土社、2020</p> <p>・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(4) 微生物学：医学書院 e テキスト</p>				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有				

科目名	臨床推論	単位数	1	授業形態	講義、演習
講師名	関口 芳恵、永山 美子	時間	15	履修年次	1年次前期
ねらい	臨床判断能力の基礎となる知識・技術を学ぶ。				
目標	1.各種検査の特徴が理解できる。 2.事例を用いて看護に必要な臨床推論のプロセスを理解できる。				
講義内容 (概要)	1.臨床検査	1)検査の目的と進め方 2)事故防止 3)評価指標 4)結果に影響を及ぼす因子			
	2.各種検査の概要	1)検体検査 2)微生物学的検査 3)病理検査 4)遺伝子検査 5)生理学的(生理機能)検査 6)画像検査 7)内視鏡検査 8)感覚機能 9)摂食・嚥下機能	(1)尿検査 (2)便検査 (3)血液学的検査 (4)血液生化学検査 (5)ホルモン検査 (6)免疫検査 (7)骨髄検査 (8)喀痰検査 (9)穿刺液検査： 胸水、腹水、心嚢液、脳脊髄液、関節液 (1)細菌検査 (1)組織診断 (2)細胞診断 (1)12誘導心電図 (2)負荷心電図 (3)心臓超音波検査 (4)呼吸機能(スパイロメーター) (5)血液ガス分析 (6)脳波 (7)筋電図		
	3.アセスメントに活かす推論技術	1)臨床推論とは 2)臨床推論のプロセス	(1)問診 (2)バイタルサイン測定 (3)身体診察 (4)検査		

講義内容 (概要)	4.具体的な症状・徴候の判断の 実際	1)発熱 2)倦怠感 3)意識障害 4)しびれ 5)胸痛 6)胸痛 7)呼吸困難 8)動機・頻脈 9)腹痛 10)悪心・嘔吐 11)吐血・下血 12)関節痛 13)浮腫 14)頭痛	
	5.事例演習		
評価方法	・筆記試験		
使用テキスト	・病態治療論[1]病態・治療総論、南江堂、2019 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査：医学書院 eテキスト		
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、検査業務経験有		

科目名	治療論	単位数	1	授業形態	講義
講師名	森 耕一、田中 圭一、滝口 典聡、石塚 俊介、 清水 誠一、荒木 祐一、岡田 恒夫、 白井謙太郎	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	病的変化に伴う治療について学ぶ。				
目標	1.治療の実際と特徴について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.放射線治療	1)放射線の基礎 2)放射線治療とは 3)種類 4)目的・適応 5)放射線治療のリスク・副作用 6)治療までの流れ	(1)放射線とは (2)放射線検査の種類 ・CT・MRI・血管造影・超音波検査 ・核医学検査 (1)外照射 (2)内部照射		
	2.手術療法	1)外科手術とは 2)目的・適応 3)方法 4)画像診断的手法	(1)開腹・開胸手術 (2)低侵襲手術 (3)外科手術の注意点 (1)血管系治療： 経動脈的塞栓術、経動脈的化学塞栓療法 (2)非血管系治療： 経皮的生検、経皮的ドレナージ (3)脳血管領域カテーテ治療 (4)心臓領域カテーテル治療		
	3.麻酔療法	1)麻酔の目的・役割 2)麻酔の分類と合併症	(1)全身麻酔 (2)区域麻酔 (1)意識消失と健忘 (2)鎮痛 (3)無動(筋弛緩) (4)生理機能の安定		
	4.輸血療法	1)輸血の目的 2)適応 3)具体的方法 4)輸血のリスク	(1)インフォームドコンセント (2)輸血を行うための検査 (3)保存方法 (4)投与速度 (5)観察		
	5.化学療法	1)目的・適応 2)作用(主作用、副作用) 3)投与経路 4)投与時の注意点			

講義内容 (概要)	6.救命救急・蘇生	1)心肺蘇生(CPR)とは 2)一次救命処置と二次救命処置 3)気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫 4)AED による除細動	
	7.リハビリテーション	1)リハビリテーションとは 2)対象疾患 3)医学的リハビリテーションとは：	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
	8.ゲノム医療	1)ゲノム医療とは 2)治療の対象 3)がん遺伝子検査	
評価方法	・筆記試験		
使用テキスト	・石松伸一他、病 態治療論[1]病態・治療総論、南江堂、2019 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護：医学書院 e テキスト		
備 考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有		

科目名	薬理学	単位数	1	授業形態	講義
講師名	椿 浩之	時間	30	履修年次	1年次後期
ねらい	薬物の作用・副作用と医薬品の管理を理解する。				
目標	1.薬物の特徴・作用機序・人体への影響を理解できる。 2.臨床の場での薬物療法を理解できる。				
講義内容 (概要)	1.薬物に関する基礎知識	1)薬物療法の目的 2)薬物の投与量と安全性 3)薬物アレルギーと特異体質 4)薬物有害作用 5)薬の処方・剤形、調剤 6)薬と法律：医薬品の管理			
	2.生体機能と薬	1)薬の体内運命と薬効： 2)薬物の相互作用 3)小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法	投与経路と吸収、血中薬物濃		
	3.薬物療法の実際	1)末梢神経作用薬： 2)中枢神経治療薬： 3)心・血管系作用薬： 4)血液作用薬： 5)呼吸器系作用薬： 6)消化器系作用薬： 7)内分泌・代謝系作用薬： 8)抗感染症薬： 9)抗悪性腫瘍薬： 10)抗炎症薬・解熱鎮痛薬： 11)抗アレルギー薬・免疫抑制剤： 12)救急時の薬物： 13)漢方薬：	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 全身麻酔薬、催眠薬、麻薬、抗てんかん薬、 パーキンソン症候群治療薬、 アルツハイマー認知症薬、向精神薬 降圧剤、利尿薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、抗 狭心症薬、強心薬 抗血栓薬、止血薬、血液製剤 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、 COPD 治療薬、インフルエンザ治療薬 胃薬、ピロリ菌について(制吐剤、下剤) 甲状腺疾患治療薬、骨・カルシウム代謝薬、 ホルモン剤、糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬 抗菌薬、抗真菌薬、ワクチン、HIV・AIDS 細胞周期、分子標的薬、発効率、有害事象 ステロイド薬、痛風治療薬、NSAIDs 免疫とは 疫抑制剤 疫増強薬 アレルギー薬 リウマチ薬 救急蘇生時の薬物 エキス製剤とは、西洋薬との違い、 代表的な漢方薬		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・新体系看護学全書 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学、メデカルフレンド社、2012 * ・木澤靖夫 監)、いちばんやさしい薬理学、成美堂出版、2020				
備考	実務経験有：医療機関にて薬剤業務経験有				

科目名	栄養学	単位数	1	授業形態	講義
講師名	唯根 理子	時間	15	履修年次	1 年次後期
ねらい	健康と栄養の関係を理解するために必要な栄養に関する基礎的知識を学ぶ。				
目標	1.生体の正常な営みに必要な栄養と臨床栄養の考え方を理解できる。				
講義内容 (概要)	1.生体の正常な営みに必要な栄養と臨床栄養の考え方	1)栄養素の種類とはたらき 2)三大栄養素の消化と栄養素の吸収・代謝 3)エネルギー代謝 4)栄養ケアマネジメント 5)栄養状態の評価・判定	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル		
	2.臨床栄養	1)栄養食事療法とは 2)主な栄養食事療法の実際	呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患 栄養・代謝疾患 腎臓疾患、 血液疾患、 食物アレルギー 熱傷 褥瘡 骨粗鬆症 咀嚼・嚥下障害		
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(3) 栄養学：医学書院 e テキスト ・系統看護学講座 別巻 栄養食事療法：医学書院 e テキスト				
備考	実務経験有：医療機関にて栄養管理業務経験有				

科目名	公衆衛生学	単位数	2	授業形態	講義
講師名	関 律子	時間	30	履修年次	3年次前期
ねらい	生活者の健康増進に対応した保健活動の進め方について理解する。				
目 標	1.公衆衛生の基本的内容を理解できる。 2.健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.公衆衛生の基本	1)公衆衛生のしくみ 2)日本の公衆衛生の歴史 3)プライマリヘルスケア 4)ヘルスプロモーション 5)PHCの健康課題の変遷			
	2.感染症対策	1)感染症とは 2)感染症の予防 3)関連法 4)主要な感染症と動向			
	3.生活環境と問題への対策	1)地球規模の環境と健康 2)身の回りの環境と健康 3)臨床疫学とエビデンス	地球温暖化 オゾン層の破壊 アスベスト 放射性物質 水質汚濁 土壌汚染 放射性物質 室内環境 家庭用品の安全対策 食品安全確保対策(食品衛生管理制度) 食中毒の予防 ごみ・廃棄物		
	4.健康に関する指標	1)国税調査 2)人口静態 3)出生 4)死亡、死因 5)周産期死亡 6)平均余命 7)健康寿命 8)受療状況			
	5.地域保健	1)母子保健 2)成人保健 3)高齢者保健 4)精神保健 5)歯科保健 6)感染症対策 7)難病支援、生涯支援			
	6.医療の動向	1)学校保健 2)産業保健 3)国際保健			

	7.生活者の健康増進	1)生活習慣病の予防 2)職場の健康管理	(1)労働安全衛生法 (2)職業棒の予防 (3)トータル・ヘルスプロモーション (4)作業環境管理 (5)ワーク・ライフ・バランス
評価方法	・筆記試験		
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生：医学書院 e テキスト		
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有		

科目名	関係法規	単位数	2	授業形態	講義
講師名	梅井 尚美	時間	30	履修年次	3年次前期
ねらい	看護師としての職務を遂行するために必要な法規について理解する。				
目標	1.法規のしくみとその種類について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.法の概念	1)法の概念 2)衛生法の沿革 3)厚生行政のしくみ			
	2.看護法	1)保健師助産師看護師法 2)看護師等の塵埃確保法			
	3.医事法	1)医師法・医療法 2)医療関係資格： 3)保健医療福祉資格法： 4)医療を支える法： 5)人の死に関する法： 6)緊急時の医療・看護に関する法：	薬剤師法、放射線技師法、理学療法士・作業療法士法 など 栄養士法、精神保健福祉士法など 地域医療・介護の総合的確保促進法、臓器移植法など 死産届出規定(省令)、死体解剖保存法 事故に関する法、災害時の医療に関する法令		
	4.保健衛生法	1)共通保健法： 2)分野別保健法： 3)感染症に関する法： 4)食品に関する法：	地域保健法、健康増進法 精神保健福祉法、母子保健法、母体保護法、学校保健安全法、がん対策基本法 など 感染症法、検疫法、新型インフルエンザ対策特別措置法 食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法		
	5.薬務法	1)薬事一般に関する法 2)人等の組織を用いた医療関連法 3)薬剤被害者の救済等 4)麻薬・毒物の法			
	6.環境衛生法	1)営業関係法 2)環境整備：	水道法、下水道法、狂犬病予防法、墓地埋葬法など		
	7.社会保険法	1)費用保障： 2)年金： 3)手当：	健康保険法、国民健康保険法、介護保険法 国民年金法、厚生年金法 児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法		
	8.福祉法	1)共通福祉： 2)児童分野： 3)高齢分野： 4)障害分野：	社会福祉法、生活保護法、民法(成年後見制度) その他 児童福祉法、児童虐待福祉法、母子及び父子並びに寡婦福祉 老人福祉法、高齢者虐待防止法、老人福祉計画 障害者基本法、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法		
	9.労働法と社会基盤整備	1)労働法： 2)社会基盤整備等：	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、育児休業・介護休業法 男女共同参画社会基本法、個人情報保護法など		

講義内容 (概要)	10.環境法	1)環境保全の基本法： 2)郊外の防止法： 3)自然保護法：	環境基本法その他 大気汚染防止法、悪臭防止法、水質汚染防止法、 騒音規制法・振動規制法など 自然環境保全法その他
評価方法	・筆記試験		
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令：医学書院 e テキスト ・看護六法、新日本法規		
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有		

科目名	社会福祉	単位数	2	授業形態	講義、演習
講師名	林 潤一、磯崎 美穂	時間	30	履修年次	2年次前期
ねらい	社会的な施策および活動について知識を深め、保健・医療との関連について理解する。				
目 標	1.社会福祉の基本的内容を理解できる。 2.生活問題に対する社会福祉の方法と課題について理解できる。 3.医療・看護と福祉の連携について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.社会福祉の基本的性格	1)社会福祉の定義 2)社会福祉の構造 3)社会福祉と看護との関連			
	2.生活問題と社会福祉サービス				
	3.医療保障	医療保障制度、公費負担医療、我が国の問題点			
	4.所得保障	年金制度、労災保険、社会手当、低所得保障			
	5.公的扶助	生活保護制度、低所得階層対策			
	6.介護保険制度				
	7.社会福祉の分野とサービス	1)高齢者福祉 2)障害者福祉 3)児童家庭福祉			
	8.社会福祉実践活動	1)基本的枠組み 2)基本となる要素 ・焦点、理論、価値・倫理要項 3)機能範囲 4)援助活動の展開過程			
	9.社会福祉と医療・看護の連携	1)連携の必要性(高齢者問題) 2)医療福祉問題 3)医療システムの変化 4)医療ソーシャルワーク 5)実際(マネジメント) 【演習】事例検討			
	10.社会福祉分野とサービス体系				
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉：医学書院 e テキスト				
備 考	実務経験有：医療機関にて MSW 業務経験有				